



www.alpajapan.org

日乗連ニュース

ALPA Japan NEWS

Date 2003.2.24

No 26 - 37

発行: 日本乗員組合連絡会議・ALPA Japan

幹事会

〒144-0043

東京都大田区羽田5 - 11 - 4

フェニックスビル

TEL.03-5705-2770 FAX.03-5705-3274

E-mail:office@alpajapan.org

機内環境問題

コックピットが一瞬にして白煙で充満する？

A320 のケース

着陸の際 Full Reverse を使用した直後、コックピット内で異臭が発生すると共に Master Warning および LAVATORY SMOKE Message が表示された。客室では煙が立ちこめ異臭が発生しているとのことであった。System Page を確認すると、Isolation Valve および Pressure Regulation Valve が Amber で Close Position であった。着陸した滑走路は Snow Condition であったため、尿素の散布が行われており、Engine に吸い込んだ尿素により Smoke が発生したものと考えられるとの調査結果が発表された。

B737 のケース

着陸中、80kt 付近で、LAVATORY SMOKE Light の点灯とともに、コックピット内に一瞬にして白煙が充満した。CA に状況を確認させたところ、Lavatory は煙が充満しているが火元は確認できないとの報告を受けた。着陸した滑走路は Ice Condition であったため、尿素の散布が行われており、Engine に吸い込んだ尿素が PACK SYSTEM に流入したことが原因と考えられるとの調査結果が発表された。

何が問題なのか？

上記でご紹介した例は、一部であり機種は A320、B737、B767 で同様の事例が報告されています。

共通する要素としては、冬季、尿素の散布、短時間でのSmoke発生です。事例が発生した後の会社対応を見ると、特に技術対策を講じることはありませんでしたが、日乗連の調査によると、尿素は熱反応によりアンモニアを生成する可能性があることがわかりました。アンモニアは生物の脳神経に悪影響を与える異臭を伴った物質です。また、報告されているSmokeの原因は、水蒸気またはアンモニアが酸素と反応して発生したアンモニウム塩の可能性があります。いずれにせよ我々はこんなものが機内で発生する可能性があることをそのままにしておくことはできません。

情報の収集にご協力ください

今のところ、実際にアンモニアが発生したのか単なる水蒸気だったのかは不明ですが、日乗連としては事態の解明は必要と考えております。日乗連 HUPER 委員会では発生頻度やメカニズム、物質の成分の特定の為に情報を収集しています。冬季運航で同様の事例を経験された方は、所属組合を通じて日乗連まで情報をお知らせください。ご協力をよろしくお願いいたします。

